

決 算 報 告 書

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

電話番号 090-9631-1610
住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3

活動計算書

2018年 4月 1日 ~ 2019年 3月 31日 まで

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	120,000	
賛助会員受取会費	0	120,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	0	0
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	6,862,592	6,862,592
4. 事業収益		
森林整備保全事業収益	5,279,330	
木質バイオマス普及事業収益	350,856	
間伐材工房運営事業収益	2,712,132	
木育等木づかい普及事業収益	118,400	8,460,718
5. その他収益		
雑収入	453,944	
受取利息		453,944
経常収益計		15,897,254
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
賃金	4,014,000	
法定福利費	552,551	
臨時雇用費		
福利厚生費		
人件費計	4,566,551	
(2) その他経費		
売上原価	300,539	
外注費	2,265,639	
交際費	14,000	
研修費	123,444	
旅費交通費	84,908	
通信運搬費	107,610	
支払手数料	100,830	
車両費	1,191,194	
減価償却費	111,273	
消耗品費	1,474,177	
水道光熱費	914,441	
雑費	137,992	
会費・図書費	12,000	
地代家賃	1,641,000	
賃借料	400,000	
その他経費計	8,879,047	
事業費計		13,445,598
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	744,000	
法定福利費	134,756	
福利厚生費	39,557	
人件費計	918,313	
(2) その他経費		
売上原価	100	
外注費	94,770	
租税公課		
旅費交通費	1,520	
通信運搬費	159,503	
支払手数料	2,376	
減価償却費	5,500	
会議費		
消耗品費	92,162	
賃借料		
雑費		
その他経費計	355,931	
管理費計		1,274,244
経常費用計		14,719,842
当期計上増減額		1,177,412
III 経常外費用		
過年度損益修正損		
経常外費用計		0
当期正味財産増減額		1,177,412
前期繰越正味財産額		△ 10,948,447
次期繰越正味財産額		△ 9,771,035

法人名： 特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

貸借対照表

2019年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
手元現金	890,636	
ゆうちょ銀行(末尾91口座)	896,953	
ゆうちょ銀行(末尾51口座)	204	
ゆうちょ銀行(末尾81口座)	30	
立替金(事業主貸分)	447,944	
流動資産合計		2,235,767
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
什器備品	378,814	
有形固定資産計	378,814	
固定資産合計		378,814
資産合計		2,614,581
II 負債の部		
1. 流動負債		
預り金A(所得税)	48,550	
預り金B(住民税)	2,100	
未払金(法人クレカ未払分)	534,966	
流動負債合計		585,616
2. 固定負債		
役員借入金	11,800,000	
固定負債合計		11,800,000
負債合計		12,385,616
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		△ 10,948,447
当期正味財産増減額		1,177,412
正味財産合計		△ 9,771,035
負債及び正味財産合計		2,614,581

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。
無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。
- (2) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	森林整備保全事業	バイオ普及事業	工房運営事業	木育等普及事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益							
1. 受取会費					0	120,000	120,000
2. 受取寄付金					0		0
3. 受取助成金等	6,862,592				6,862,592		6,862,592
4. 事業収入	5,279,330	350,856	2,712,132	118,400	8,460,718		8,460,718
5. その他収益	6,000				6,000	447,944	453,944
経常収益計	12,147,922	350,856	2,712,132	118,400	15,329,310	567,944	15,897,254
II 経常費用							
(1) 人件費							
給料手当			4,014,000		4,014,000	744,000	4,758,000
臨時雇用費					0		0
福利厚生費					0	39,557	39,557
法定福利費	74,662		477,889		552,551	134,756	687,307
人件費計	74,662	0	4,491,889	0	4,566,551	918,313	5,484,864
(2) その他経費							
売上原価		273,453	27,086		300,539	100	300,639
交際費	9,000		5,000		14,000		14,000
外注費	1,852,299	250,000	163,340		2,265,639	94,770	2,360,409
研修費	57,692		65,752		123,444		123,444
旅費交通費	75,409	4,710	3,689	1,100	84,908	1,520	86,428
通信運搬費	85,129	0	22,481		107,610	159,503	267,113
支払手数料	28,044	864	69,722	2,200	100,830	2,376	103,206
車輛費	918,859	5,364	266,971		1,191,194		1,191,194
減価償却費	181		116,592		116,773	0	116,773
会議費					0		0
消耗品費	793,420	26,461	635,020	19,276	1,474,177	92,162	1,566,339
水道光熱費	76,738		837,703		914,441		914,441
雑費	140,392		△ 4,000	1,600	137,992		137,992
会費・図書費	12,000				12,000		12,000
地代家賃	241,000		1,400,000		1,641,000		1,641,000
賃借料	400,000				400,000		400,000
寄付金					0		0
その他経費計	4,690,163	560,852	3,609,356	24,176	8,884,547	350,431	9,234,978
事業費計	4,764,825	560,852	8,101,245	24,176	13,451,098	1,268,744	14,719,842
当期経常増減額	7,383,097	△ 209,996	△ 5,389,113	94,224	28,780,408	△ 700,800	1,177,412

3. 用途等が制約された寄付等の内訳

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
1.森林山村多面的機能発揮対策交付金	0	4,368,000	4,368,000	0	
2.パルシステム生協助成金		1,760,000	1,760,000	0	
3.岩泉町29年森林づくり事業補助金		734,592	734,592		
合計	0	6,862,592	6,862,592	0	

4. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	当期減価償却額	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産							
機械用動力設備(工房運営事業)	400,000		24,536		172,785	△ 251,751	148,249
スライドソー(工房運営事業)	2,300,000		69,193		187,513	△ 2,181,680	118,320
自動一面カンナ盤(工房運営事業)	250,000		0		12,500	△ 237,500	12,500
手押しカンナ盤(工房運営事業)	250,000		0		12,500	△ 237,500	12,500
超仕上げカンナ盤(工房運営事業)	250,000		0		12,500	△ 237,500	12,500
角のみ盤(工房運営事業)	150,000		0		7,500	△ 142,500	7,500
スライドソー三角定規(工房運営事業)	160,000		4,813		13,043	△ 151,770	8,230
簡易製材機(工房運営事業)	600,000		18,050		48,915	△ 569,135	30,865
手動ウィンチ(森林保全整備事業)	126,000		181		6,481	△ 119,700	6,300
チェーンソー(森林保全整備事業)	127,000		0		6,350	△ 120,650	6,350
デモ用薪ストーブ(バイオ普及事業)	200,000		0		10,000	△ 190,000	10,000
事務用パソコン(管理部門)	110,000		0		5,500	△ 104,500	5,500
合計	4,923,000	0	116,773	0	495,587	△ 4,544,186	378,814
	当期減価償却額		管理部門	バイオ普及事業	工房運営事業	森林整備事業	
				116,592		181	

5. 借入金の増減内訳

借入金の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
役員借入金	11,500,000	3,860,000	3,560,000	11,800,000

法人名： 特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

財産目録

2020年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
手許現金	890,636	
ゆうちょ銀行(末尾91口座)	896,953	
ゆうちょ銀行(末尾92口座)	204	
ゆうちょ銀行(末尾93口座)	30	
立替金(事業主貸分)	447,944	
流動資産合計		2,235,767
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
構築物		
機械用動力設備	148,249	
機械及び装置		
スライドソー(工房運営事業)	118,320	
自動一面カンナ盤(工房運営事業)	12,500	
手押しカンナ盤(工房運営事業)	12,500	
超仕上げカンナ盤(工房運営事業)	12,500	
角のみ盤(工房運営事業)	7,500	
工具・器具及び備品		
スライドソー三角定規(工房運営事業)	8,230	
簡易製材機(工房運営事業)	30,865	
手動ウィンチ (森林保全整備事業)	6,300	
チェーンソー(森林保全整備事業)	6,350	
デモ用薪ストーブ(バイオ普及事業)	10,000	
事務用パソコン(管理部門)	5,500	
固定資産合計		378,814
資産合計		2,614,581
II 負債の部		
1. 流動負債		
預り金A(所得税)	48,550	
預り金B(住民税)	2,100	
未払金(法人クレカ未払分)	534,966	
流動負債合計		585,616
2. 固定負債		
役員借入金		
理事1名より	11,800,000	
固定負債合計		11,800,000
負債合計		12,385,616
正味財産		△ 9,771,035

事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

電話番号 090-9631-1610
住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3

平成30年度事業報告①

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

1.事業総括

平成22年4月にNPO法人を立上げ丸9年が経過しました。本報告書では、平成30年度決算及び30年度に実施した事業の概略についてご報告申し上げます。

1.30年度決算について

平成30年度決算は、単年度にて約120万円のプラスを計上することができました。ただ、役員借入金残高が前年度対比で30万円増えており、それでも実質的には約90万円のプラスになりました。直近3年間は自主事業での収益が50%を超えてきており、岩泉事業をスタートした一昨年を含め、ホダ木の生産による収益への貢献は確かに大きいのですが、工房運営事業での収益がここ3年安定して大きな柱になりつつあります。

30年度も、補助金や助成金も含め森林整備保全事業だけで、前期を大きく上回り実に全体の76%の収益を占め、事業規模的にも単独事業で1,200万円超え迄いきました。事業全体の収益は前年対比で100万円ほどの減少ではありますが、3期連続で自主事業が補助金や助成金等の他力本願的な収益を大きく上回ったことは、活動全体が確実に良い方向に展開してきていると実感しております。2年前からスタートした岩泉でのホダ木生産を核とした森林整備事業が、15年先の二回り目に突入するまで今の状態を維持、若しくは少しずつでも拡大できれば活動経費の殆どを自力で賄うことも決して夢ではなくなると思っております。

既に新しい期がスタートして2ヶ月が経過しましたが、平成31年度も1月から工房への大口受注が首都圏の新設保育園から入ったり、ホダ木の大口径オーダーが予定外の事業所から入ったりと、昨年に引き続き年明け早々好調なスタートができています。昨年もスタートダッシュの勢いが4月以降も衰えず、最終的にプラスの決算で終えるに至りました。前期同様、活動資金の目処がついた好機に乗じて、工房で使用する加工機械を1台導入すると共に、普及活動に欠かせないデモ用薪ストーブ「夢ストーブ元樹」も持つことができました。また、2名の専任スタッフにも雇用以来初めて当期手当を支給することも出来ました。

現在、フォレストサイクル元樹の正会員は13名です。NPOという組織形態での活動を今後とも継続するのにギリギリの会員数です。昨年も本報告書の中で申し上げたことと同じになりますが、“**フォレストサイクル元樹の会員でいてくれる**”だけでも皆様には感謝いたします。薪ストーブフェスタ等のイベント時は、何人かの会員の方々にはお手伝い頂いたり、年会費相当の薪を使っている会員の方も複数名いらっしゃいます。何かの機会がありましたら栗原の工房や岩泉にも遊びにいらしてください。昨年は、仙台市内から2組のボランティアの方達が泊まりがけで岩泉の森林活動のお手伝いに来ていただきました。会員の皆様には、**今後とも陰ながらも構いませんので、継続会員として年会費にて応援していただけること**を切に願っております。



山作業の副産物：オニグルミ



ボランティアのご夫婦との記念撮影

平成30年度事業報告②

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

2-1 森林整備保全事業について

スタート時ホダ木生産の成果目標として掲げた6,000本に対し、100%の達成にてホダ木を前期と同じ岩手・宮城の生産農家さん及び森林組合に出荷する事ができました。本数で1年目を700本上回りました。30年度も2本の作業道を新設、合計距離1,000mに達しホダ木の生産に大きく貢献してくれました。1年目は、初めての広葉樹林での作業やトラックでの作業道往来等試行錯誤しながらもそれなりの成果は出せた一方で、改善すべき点が多々見つかりそれらを踏まえ作業手順や作業のやり方、装備等軌道修正をしながら活動した1年でした。また、1年目に新設した作業道のメンテや修復も繰り返し実施、土質が良くない為落ち着くまでの数年間は定期的なメンテや修復が必要性を強く感じました。



初年度作業道の修復・メンテ作業



バックホーによる作業路の新設

広葉樹林2年目の活動スタートにあたり一番興味深かったのが、初年度に伐採した切り株からの方が更新の有無です。コナラは特に日当たりを好む樹種と言われている為、伐採エリアのかなりのスペースが集材スペース確保と、優先率を高める為に皆伐に近い状況が発生している場所が多く、当然日当たりもすごく良いので大きな期待感を持って4月から確認して歩きました。翌年からすぐ萌芽するのか？しない株も有るのか興味津々で回った結果、出ている株とそうでない株が、場所とかではなく同じエリアでも見受けられました。萌芽状況を見ながら初年度施業場所を歩き回ると、当然ながら規格外で集材をしなかったコナラの残材の他、作業路を作る過程で伐採した玉切り前の雑木も結構な量見受けられ、2年目のスタートの作業は薪用の残材を集め搬出するところから始めました。結構な量があり、工房に持ち帰り割り薪と丸太のままでの販売用の、薪乾燥用のスペースも拡大することにしました。



昨年の残材や作業道工事過程で出た材の搬出



残材の薪用途での搬出・運搬

平成30年度事業報告③

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

2.-2 森林整備保全事業について



前年伐採の切り株からの方が更新



約170cm位の背丈の更新株、今後毎年確認予定

平成30年度は、2本の作業路の新設に加え、ホダ木や薪用の土場も2箇所整備しました。どちらも大型トラックが横付け又はバックで入れるスペースを確保しました。これも1年目の経験を生かされ作業効率のアップに繋がりました。1年目は、ちょっとした積雪でトラックが作業道に入ることが出来ず、作業に支障をきたす場面があった為、全輪にタイヤチェーンを装着し作業にあたりました。20cmを超える積雪では厳しいのですが、前年比ではトラックの稼働率も上がり、チェーン装着も短時間でできるようになりました。地面が柔らかいところの工夫が今後の課題です。



ホダ木生産作業の様子(玉切り後)



積雪環境下での伐採作業

平成30年度は、約100日間岩泉に泊まり込んでの活動になりました。最初の1年間は、活動の際の住居を山主さん宅での間借りという形態での活動実施でしたが、2年目を迎えるにあたり岩泉町内に宿泊用の住居を年間契約で借り、岩泉での活動の際はスタッフ3名で自炊しながらの共同生活をする形に変更しました。活動の現場までは片道20km程距離があり現場までの往復で約1時間かかりますが、住居は街の中心地にあり、すぐ近くにコンビニやスーパー・ガソスタという立地に加え、低料金の日帰り温泉施設も近く作業終了後の疲れを癒す為に毎日利用しています。特に10月からの3ヶ月間は、ほぼ付きの半分を岩泉町で過ごす為、その間のスタッフの充実した生活環境を整えてゆくのも法人としての責務と考えています。フォレストサイクル元樹は、この地では俗にいう新参者であるということは否めません。

今後長期にわたるこの地での活動を見据え、町役場が主導し地域の林業や木材に関わる事業者で組織する「岩泉の明日の林業をつくる会」に、正会員として参加し勉強会等にも積極的に出席して地域でのネットワークづくりも進めていきたいと考えています。

平成30年度事業報告④

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

2.-3 森林整備保全事業について



大型トラックもスッポリ入る整備済土場



山形県新庄市内のイグネ伐採(泊り作業)

平成30年度は、イグネ伐採作業も2件受託することが出来ました。その内の1件は山形県新庄市内の作業で泊りがけの作業になりました。もう1点、30年度は新たな依頼が舞い込みました。2年間助成金を頂いている、パルシステム東京から岩泉での活動の様子を動画取材させて欲しいとの内容で、秋口の2日間ドローンを使った空撮を中心に取材&撮影が行われ、編集されたものはパルシステム東京の会員の方々にも公開され好評を博したとのこと。HPサイトにも近日中にアップする予定ですのでご覧になってみてください。

3. 木質バイオマス普及活動について



増設した販売用薪の乾燥・保管スペース(全体で約20m)

平成30年度は、残念ながらの新規導入はゼロでした。薪ストーブの普及活動自体、MELON主催の仙台中心部での「薪ストーブフェスタ」に2年ぶりで参加したのみで、独自での活動は出来ずに終わりました。ただ、念願であった団体のデモ用薪ストーブ【夢ストーブ元樹】をカナンさんに発注し、薪ストーブフェスタでお披露目することが出来ました。また昨年からはスタートした薪の販売は、今年度は6箇所に加え収益に貢献できました。薪・薪ストーブとも次年度は普及活動の加速化を目指します。

平成30年度事業報告⑤

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

4-1 間伐材工房運営事業について

工房が稼働してから丸6年が過ぎました。28年・29年と続いた大口での複数受注の流れが30年度も継続しています。工房事業のトータル収益も270万を超えています。28年度迄は、大口受注があっても単発が多かったのですが、毎年継続的にトータル受注額で安定的に多額の発注して頂いている事業者との良好な関係がつついております。。仙台市の向山こども園からは、30年度も可動棚の追加製作20台発注の他、一昨年に続き広葉樹原木&輪切りの大量発注も頂きました。園で開催するイベントへの参加も毎回声をかけてもらい協力させていただいています。お付き合いのある事業者からのご紹介で大きな受注に繋がった事もありました。また、ヨーロッパの木製玩具を中心に事業を展開している仙台の「ユーロバス」さんとも、何かにつけ受注製作が続いており、前期に”間伐材ログキッズ”の発注(3set)と同じ東京の幼保施設から4setの追加発注もありました。30年度も引き続き水中貯木乾燥の検証を継続し、水産業や農業で使用するネットの中に生材をカットした材を樹種別に入れての貯木スタイルに変更したり、貯木後の板の乾燥も枕を入れた平積みではなく縦置きにし乾燥期間に与える影響の検証もスタートしました。そして来季から、水中貯木乾燥の実証実験を、東京の大学と製材所との3社での共同研究という形で検証を深めていきます。



生材カットからの水中貯木画像



貯木後の板材の縦置き乾燥

また未利用材の出口の開拓分野では、間接的ではありますが複数の工房での製作品が、「ルミネ大宮店」と二子玉川の大型商業施設「ライズ」の催事にて試験販売が実現し、都会のお客様に好感触だったとのフィードバックがありました。更に、通販大手フェリシモの第一線で活躍するクリエイターが講師を務める「商品企画アカデミー全10回」を受講、その延長でフェリシモ主催の「スター商品誕生オーディション」にもチャレンジし、見事仙台三越とホテルメトロポリタンに「きこりのバスヒーリング」という新商品の採用が決定しました。新たな出口の拡大に繋がればとの想いで今後ともアプローチをしてゆく予定です



デザイナーによる新商品販促POP



バスヒーリングの使用画像(龍泉洞愛山家族風呂)

平成30年度事業報告⑥

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

4.-2 間伐材工房運営事業について

未利用材の出口の拡大に向け、バスヒーリングに加え新たな商品の開発と、既存商品のブラッシュアップにもチャレンジをしてきた1年でもありました。フォレストキューブ(“はじめての積み木”の多樹種広葉樹版)・輪切りプレート(皮付28樹)・森の樹のツリー(枝パーツが全て違う樹種バージョン)の既存商品の改良に加え、盛岡の老舗仏具店との相談で「森の木の位牌・お仏膳」の開発にもチャレンジしています。本年度導入した「習い加工機」を使うことで、ホゾやホゾ穴の加工が精度が増し、箱組みの際にあられ組みが簡単にできるようになりクォリティーupに繋がっています。クォリティーの高い商品数を増やすことと並行して出口の開拓を今後とも進めていきたいと考えています。

5. 木育等木づかい普及事業について



向山こども園餅つき大会(岩泉の杵と臼持参)



泉区内小学校子供会の新1年生歓迎行事サポート

平成30年度の活動も、団体主催の活動は無く、例年の定期的なイベントへの参加の他、要請を受けて参加する形態のみに留まりました。仙台市新緑祭・茜フェス(向山こども園)・MELON祭り・キリストこども(向山こども園)への出店と、餅つき大会(向山こども園)参加、1万枚のブロックでナイアガラの滝崩し(館小学校・)マイ箸づくり(泉ガ丘幼稚園)の出前講座のみの活動でした。本年も団体主催のワークショップやイベントは出来ずに1年が過ぎてしまいました。岩泉での森林整備事業と、未利用材の出口の開拓及びその為の商品開発に、ある程度の目処が立つまでの間は時間的な余裕が全くない状態の為、もう暫くの期間は参加する活動の中で工夫も加えながら全力で、限られた普及のチャンスを生かしていきたいと考えています。